

（幽深秋色）（泉屋博古館東京）
（展示期間：11/17-12/18）

特別展「木島櫻谷 一山水夢中」

木島櫻谷は生涯山水画を描き続け、日々京都近郊に足を運び、毎年数週間にわたる旅行で山海の景勝の写生を重ねました。その成果は近代的で明瞭な山水画を切り拓くことになりました。本展では、代表作をはじめ多彩な山水画を展示し、その根底にあった心の風景を探ります。

開館時間：午前10時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

会 場：泉屋博古館（京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24）
休館日：月曜日 入館料：一般 1,000 円 高大生 800 円 中学生以下無料
問合せ：075-771-6411

主 催：公益財団法人泉屋博古館
公益財団法人櫻谷文庫
BS フジノライブエグザム
京都新聞

公式HPはこちら

会 期

2022

11.3（木・祝）

↓

12.18（日）

泉屋博古館

南陽院本堂《木島櫻谷 山水障壁画》特別公開

公開時間：午前10時～午後5時（時間指定制）
拝 観 休：期間中の月曜日
拝 観 料：1,000 円（時間指定制）
販売取扱=イープラス

会 期 1

2022

11.3（木・祝）

↓

11.13（日）

会 期 2

2022

11.23（木・祝）

↓

12.11（日）

南陽院（南禅寺塔頭）

木島櫻谷旧邸 特別公開

木島櫻谷が後半生を過ごした衣笠の邸宅（櫻谷文庫・京都市指定文化財）が特別公開。櫻谷の色紙や写生などの作品が展示されます。

入場時間：午前10時～午後4時
会 場：櫻谷文庫（京都市北区等持院東町56）
入場料：600 円
問合せ：075-461-9395

会 期

2022

11.3（木・祝）

↓

12.4（日）

土日祝のみ

櫻谷文庫

洋館

《獅子》（櫻谷文庫）

天井画制作 120周年特別企画 「木島櫻谷の扇展」

扇子の老舗「宮脇賣扇庵」本店の天井画は、若き日の木島櫻谷を含む、明治京都画壇48名によって制作されました。天井画120周年の特別企画として、櫻谷文庫所蔵の扇子と扇面画の展示を行います。

営業時間：午前10時～午後6時
会 場：宮脇賣扇庵（京都市中京区六角通富小路東入ル大黒町 80-3）
入場料：無料 問合せ：075-221-0181

会 期

2022

11.16（水）

↓

12.7（水）

宮脇賣扇庵

周遊チケット情報

紙チケット 櫻谷三昧 ～ぐるっとアート連携チケット～

内容：泉屋博古館・南陽院・櫻谷文庫の各入場券、宮脇賣扇庵本店 20% 割引券
価格：2,200 円 問合せ：075-255-9757（京都新聞 COM 事業推進局）

デジタル 木島櫻谷 三館夢中 プレミアムチケット

内容：泉屋博古館・南陽院・櫻谷文庫の各入場券、「山水夢中」図録など図書2冊
価格：6,100 円 販売取扱=イープラス

※各券の利用期間は各施設の閉館日に準じます。

木島櫻谷

このしまほうまっぷ（1877-1938）

明治後半から昭和初期まで、文展帝展で活躍した京都日本画壇の代表的存在。徹底した写生を基礎に、卓越した技術と独自の感性により生み出された叙情的で気品ある画風で、近年再評価の気運が高まっています。とりわけ親しみやすい動物画で知られますが、生涯描き続けた山水画も秀逸で、郷愁をそそられます。

洋館

《獅子》（櫻谷文庫）



京都 おさんぽまっぷ

O S A N P O - M A P

近代の京都画壇を代表する日本画家・木島櫻谷
ゆかりの地を訪ねて、芸術の香る明治大正の京都にタイムスリップ！

発行 / 泉屋博古館 制作 / 京都新聞 COM デザイン / JY DESIGN 漫画・イラスト / 河野沙也子 助成 / 令和4年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業

写生同行者のスケッチも多く残っている

速ッッ!!

櫻谷さん もう完成!?

櫻谷は絵を描くのがとても速かった。

どこにしようかな

五分刈り頭で、着物に袴という身軽な服装を好んだ。

財布を持ち歩かず、懐には写生帖と矢立を必ず忍ばせていたという。

今尾景年門の画塾生時代から眠さあれば近郊へ出掛け写生をしていた櫻谷。自然を愛し人の営みを愛した彼の写生帖は七〇〇冊を超える。

櫻谷が親しんだ京の町。地図を片手に一緒に歩いてみませんか。

手描きの婚礼衣装を早々に用意したりと、小さな孫娘を溺愛する一面もあった。

矢立：墨壺と筆を携帯するための道具

父が急死し商業学校を辞めた櫻谷は、大好きであった絵の道を志す。

櫻谷が居ません

また写生しに行つたんだろう

櫻谷の師匠 今尾景年

生家が商家だったので商業学校へ通うが、簿記や数学が苦手だった。

絵と並んで文学にも興味があり、漢籍に親しんだ櫻谷は

論語読みの櫻谷さんと呼ばれていた。

20代の頃から様々な画題を描き、中でも動物画は高く評価された。

『野猿図』（部分）

31歳の年に新設された官宮の展覧会「文展」には、『かりくら』や『寒月』など大作を出品し、連年上位入賞を果たす。

『寒月』（部分）

画学校教員や審査員で多忙だった櫻谷は、50歳前後からそれらを辞し、衣笠で詩書画三昧な生活を送る。

京都 おさんぽマップ

京都には明治大正の
画家の息吹がいま感じられる場所がたくさん。
明治生まれの日本画家木島櫻谷の
とおきの場所をたどってみましょう。

＊＝現存せず

A 等持院 京都市北区等持院北町 63
櫻谷の墓所。臨済宗の古刹で足利家歴代の菩提寺。(墓地は非公開)
(参拝は9時～16時30分)

B 木島櫻谷旧邸 (櫻谷文庫)

京都市北区等持院東町 56

櫻谷が自ら設計に関わり建設し、後半生を過ごした邸宅。現在は現存する三棟の建物が京都市指定文化財となり櫻谷の関連資料を所蔵する公益財団法人櫻谷文庫となっている。



C とらや 京都市上京区広橋殿町 415

御所出入りの御用商人を古くから勤めた和菓子店。櫻谷一家も愛用していたようで、櫻谷文庫には「木島様」と記された通い箱が伝わる。
(9時～18時、元日／毎月最終月曜休 ※12月を除く)

D 放光堂 京都市中京区秋野々町 525 二条下ル

伝統製法で製造した岩絵具を取り扱う日本画材料店。櫻谷文庫には櫻谷が使用した放光堂の絵具が多数伝わる。(日祝休)

E 山本読書室＊

江戸後期以来の漢学・本草学の私塾。櫻谷は10代から20代にかけて山本溪愚に漢籍の手ほどきを受けた。京の町方の知を支えた学塾。

F 今尾景年宅＊

今尾景年の明治27年から31年頃の住まい。景年は市中で何度か転居しているが、櫻谷が景年画塾生として通ったのは主にこの地。

G 芸艸堂 京都市中京区寺町通二条南入ル妙満寺前町 459

明治以来、美術系書籍を多数発行。現在も手摺木版本を刊行する貴重な出版社。櫻谷29歳で上梓した画集『木島櫻谷画集上』の発行元。
(9時～17時30分、土日祝休)

H 宮崎家具 京都市中京区夷川通堺町西入ル百足屋町 152

京指物の伝統を受け継ぐ家具店。桐に蒔画や螺鈿、金工もまじえた芸術的な和家具で知られ、大正時代には櫻谷も依頼を受け図案を提供。
(月・火・木・金曜の10時～17時 ※事前予約制)

I 元博覧会場＊

明治38年、櫻谷が29歳で「木島櫻谷屏風展」を開催、屏風14双を展示。

J 京都市立美術工芸学校・絵画専門学校＊

京都市立芸術大学の前身。櫻谷が36歳から49歳まで(大正元年～14年)教鞭をとった。

K 京都市京セラ美術館 (京都市美術館)

京都市左京区岡崎円勝寺町 124

大礼記念京都美術館として昭和8年に開館。帝展の会場として、晩年の櫻谷も出品や審査に関わった。没後3年と50年に回顧展を開催。この地では明治28年第4回国勧業博覧会開催後、展覧会がたびたび催された。
(10時～18時、月曜休 ※祝日は開館)

L 京都市動物園 (旧京都市記念動物園)

京都市左京区岡崎法勝寺町岡崎公園内

明治36年の開園以来、終生動物の写生に訪れた。代表作《寒月》の狐もこの地の写生が生かされる。
(9時～17時 ※12月～2月は16時30分まで、月曜休 ※祝日の場合翌日休)

1 京都府商業学校＊ (現京都市立西京高等学校 ※移転)

櫻谷は父の逝去により16歳で退学するまで2年通った。算数や簿記には全く関心が持てなかったが、洋画家による図画指導で西洋絵画の基礎に触れた。

2 竹内栖鳳宅＊

近代日本画の巨人とも称される栖鳳は、この地で生まれ昭和4年まで住んだ。13歳上上の栖鳳の活動は若き日の櫻谷に大きな刺激を与えたに違いない。

3 今尾景年宅 (現・久保家住宅 (登録有形文化財))

京都市中京区六角通新町西入ル西六角町 101

櫻谷の師である景年が大正3年に建築し移り住んだ邸宅。画室は明るい二階にあったという。内部は現在非公開。

4 幸野楳嶺塾＊

楳嶺は、明治前期の京都画壇を支えた四条派の大家で、門下からは菊池芳文、竹内栖鳳はじめ多くの画家を輩出。櫻谷は少年時代に前の通りからよく中をのぞいたという。

5 木島櫻谷龍池宅＊

画家として独立する27、28歳頃に実家から転居、龍池画塾を立ち上げた。

6 木島櫻谷生家＊

明治10年、高級調度商木島家の次男として生まれる。近隣の文人や芸術家がしばしば来訪した。

梅ヶ畑
鷹ヶ峰

鞍馬
貴船

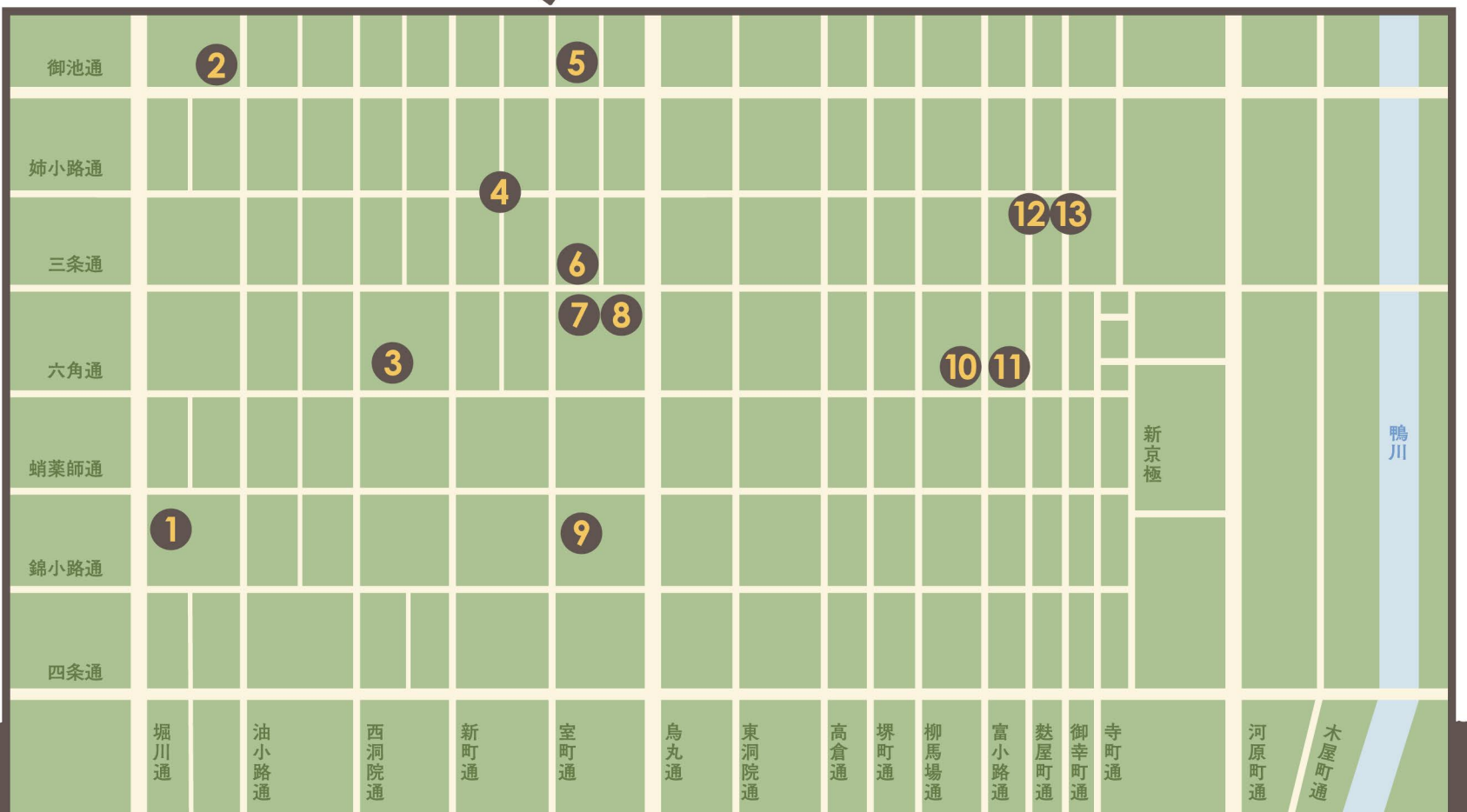
鴨川
上流

大原
八瀬

櫻谷は好んで
京都郊外に足を運び
写生をしました。

櫻谷の意匠が
いたところに残る
邸宅で作品と色紙を
特別公開!
詳しくは表面

本堂50面に及ぶ
山水障壁画を
特別に公開!
詳しくは表面



7 journal standard luxe 京都 (旧大橋邸)

京都市中京区三条通烏丸西入ル御倉町 71-2 1F

江戸中期よりこの地で活躍し千總の事業に深く関わった大橋家の旧邸。櫻谷も幼少から交流し、四代松次郎とは特に親しかった。京町家の外観や構造を生かしたモダンな店舗。(平日11時～20時、土日祝は19時まで。火曜休)

8 千總 (西村總左衛門商店) 京都市中京区三条通烏丸西入ル御倉町 80番地

江戸時代から続く染織問屋。明治には室内装飾染織のため櫻谷も原画を提供、国際的に高い評価を得た。櫻谷の生家の向かい。

開館時間：11時～18時

※千總本店の営業日・営業時間に準じます。

休館：火・水曜日 入場無料

千總ギャラリー「理外の理」

2022年9月10日(土)～

12月12日(月)にて

木島櫻谷《猛鷲図》を展示!!



9 京都芸術センター (元明倫小学校)

京都市中京区室町通蛸薬師下ル山伏山町 546-2

明治初めに開校した番組小学校のひとつで櫻谷の母校。現存する校舎の竣工(1931年)記念に櫻谷が揮毫した《富嶽瑞雪》は長く講堂に掲げられた。(10時～20時、12/28-1/4休、臨時休館あり、入館無料)

10 金翠堂 京都市中京区六角町富小路西入ル 79

現在は営業していないが、明治23年創業の画材店で、モダンな建築は多くの画家が入り出した往時の様子を彷彿とさせる。櫻谷も金翠堂の筆・刷毛を愛用していた。

11 宮脇賣扇庵 京都市中京区六角通富小路東入ル 大黒町 80-3

京扇子の老舗。店舗天井の扇面画は明治35年、京都の代表的画家48名による。弱冠26歳の櫻谷も参加。



天井画は120周年!
櫻谷の扇面と共に
特別企画展を開催!
詳しくは表面

12 彩雲堂 京都市中京区姉大東町 552

水墨画・日本画の材料の老舗。富岡鉄斎の看板があり、創業時からかわらぬ店構え。櫻谷文庫には櫻谷が所持した多くの彩雲堂製絵具が伝わる。
(9時30分～18時、水曜休)

13 総本家 河道屋 京都市中京区姉小路通御幸町西入ル

櫻谷邸では、いつも山盛りのそばぼうろでもてなされた、とある記者の述懐が残る。素朴で枯淡、風雅な味わいと姿は櫻谷の好みにあったのだろう。
(8時30分～17時30分、正月休)